

2 高齢化の国際的動向

(1) 世界の高齢化は急速に進展

令和2（2020）年の世界の総人口は78億4,095万人であり、令和42（2060）年には100億6,773万人になると見込まれている。

世界の総人口に占める65歳以上の者の割合（高齢化率）は、昭和25（1950）年の5.1%から

令和2（2020）年には9.4%に上昇しているが、さらに令和42（2060）年には18.7%にまで上昇するものと見込まれており、今後40年で高齢化が急速に進展することになる。地域別高齢化率の今後の推計を見ると、これまで高齢化が進行してきた先進地域はもとより、開発途上地域においても、高齢化が急速に進展すると見込まれている（表1-1-5）。

表1-1-5 世界人口の動向等

	昭和25（1950）年	令和2（2020）年	令和42（2060）年※中位推計
総人口	2,499,322 千人	7,840,953 千人	10,067,734 千人
65歳以上人口	128,208 千人	739,478 千人	1,882,275 千人
先進地域	61,795 千人	245,874 千人	366,123 千人
開発途上地域	66,413 千人	493,603 千人	1,516,152 千人
75歳以上人口	38,432 千人	277,839 千人	928,050 千人
先進地域	19,365 千人	111,153 千人	214,057 千人
開発途上地域	19,067 千人	166,686 千人	713,993 千人
85歳以上人口	5,121 千人	66,695 千人	303,022 千人
先進地域	2,671 千人	32,868 千人	85,862 千人
開発途上地域	2,450 千人	33,828 千人	217,160 千人
65歳以上人口比率	5.1 %	9.4 %	18.7 %
先進地域	7.7 %	19.3 %	29.5 %
開発途上地域	3.9 %	7.5 %	17.2 %
75歳以上人口比率	1.5 %	3.5 %	9.2 %
先進地域	2.4 %	8.7 %	17.2 %
開発途上地域	1.1 %	2.5 %	8.1 %
85歳以上人口比率	0.2 %	0.9 %	3.0 %
先進地域	0.3 %	2.6 %	6.9 %
開発途上地域	0.1 %	0.5 %	2.5 %
平均寿命（男性）	44.6 年	69.4 年	75.9 年
同（女性）	48.4 年	74.8 年	80.8 年
合計特殊出生率	4.86	2.35	2.06

資料：UN, World Population Prospects : The 2022 Revision

（注）先進地域とは、ヨーロッパ、北部アメリカ、日本、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。

開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

(2) 我が国は世界で最も高い高齢化率である

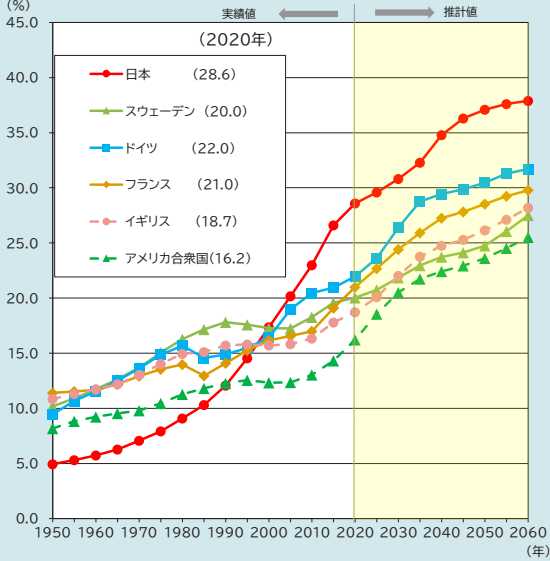
我が国と欧米諸国の高齢化率を比較して見ると、我が国の65歳以上人口は平成2（1990）年までは下位であったが、平成17（2005）年には最も高い水準となり、今後も高水準が続くと見込まれている（図1-1-6）。

高齢化の速度について、高齢化率が7%を超えてからその倍の14%に達するまでの所要年数（倍加年数）によって比較すると、フランス

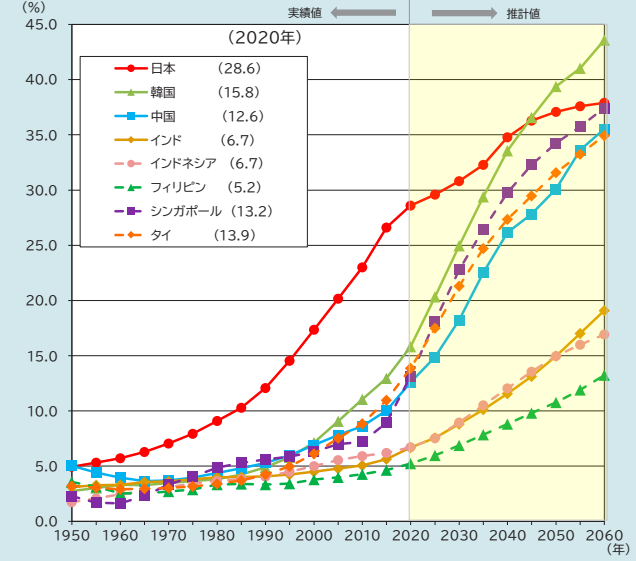
が115年、スウェーデンが85年、アメリカが72年、比較的短いイギリスが46年、ドイツが40年であるのに対し、我が国は、昭和45（1970）年に7%を超えると、その24年後の平成6（1994）年には14%に達した。一方、アジア諸国に目を移すと、韓国が18年、シンガポールが15年など、今後、一部の国でも我が国を上回るスピードで高齢化が進むことが考えられる（図1-1-7）。

図1-1-6 世界の各年代別高齢者の割合及び推移

1. 欧米(65歳以上人口)

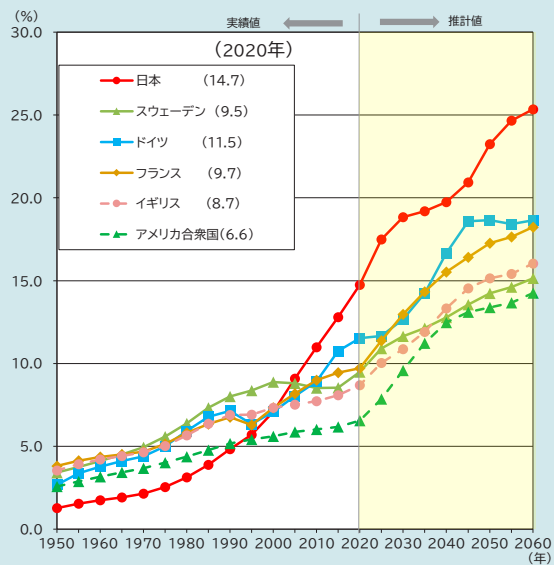


2. アジア(65歳以上人口)

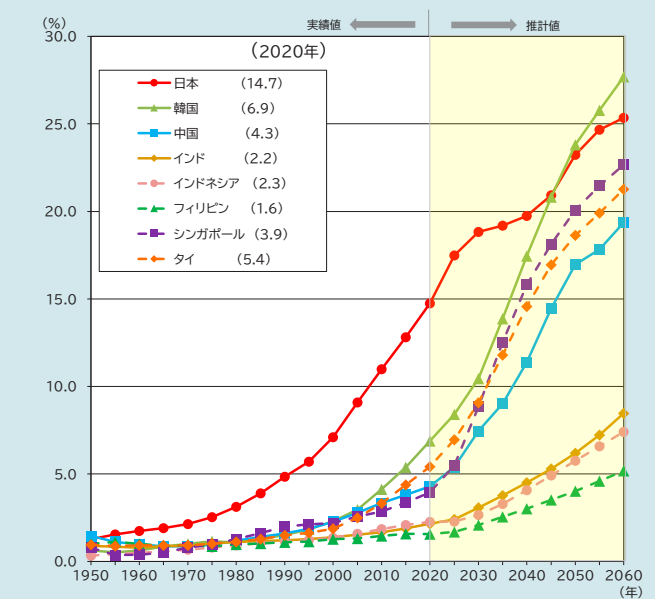


資料：UN, World Population Prospects : The 2022 Revision
 ただし日本は、2020年までは総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。

1. 欧米(75歳以上人口)

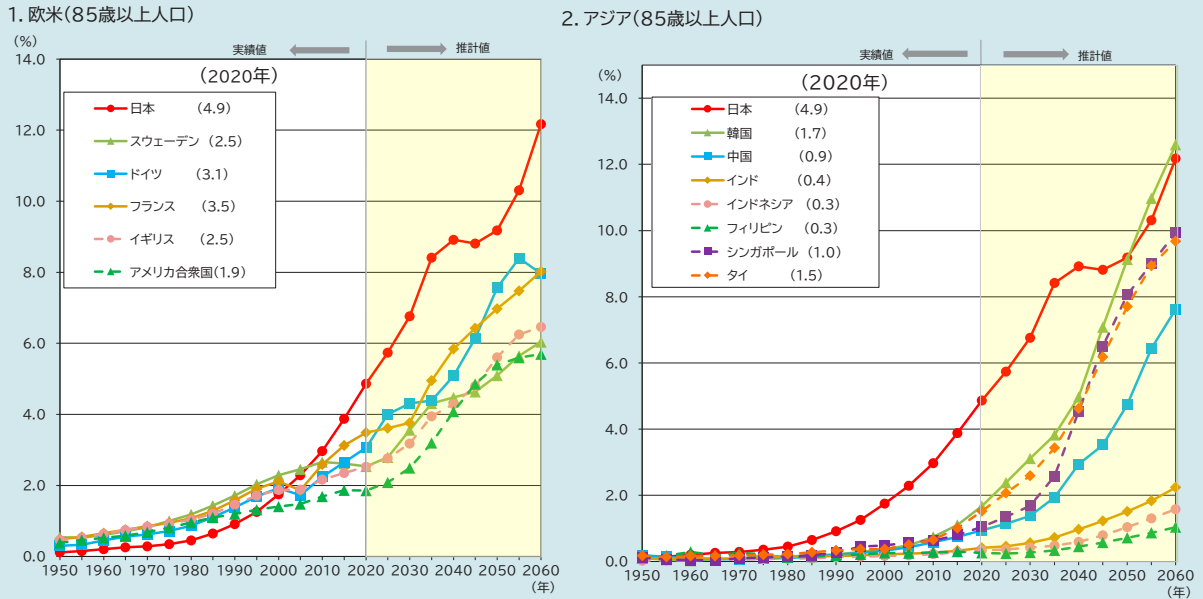


2. アジア(75歳以上人口)



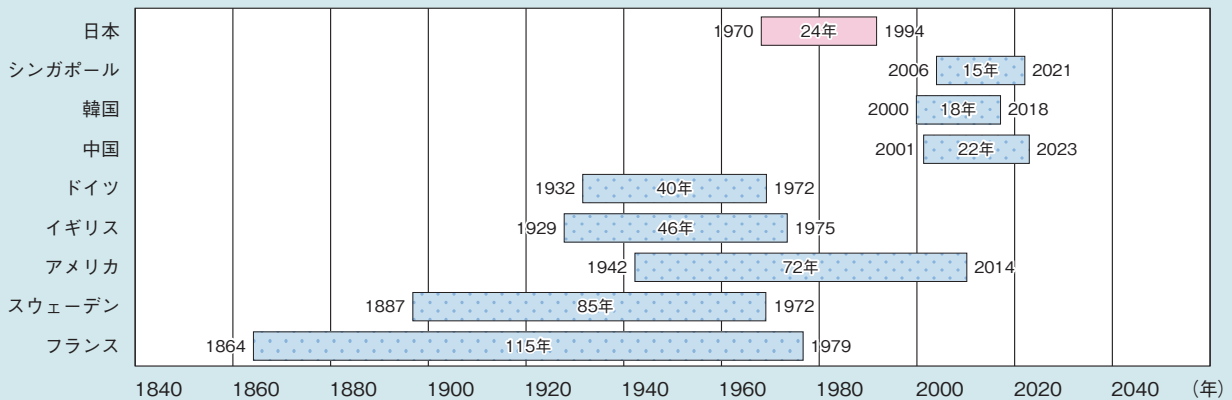
資料：UN, World Population Prospects : The 2022 Revision
 ただし日本は、2020年までは総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。

図1-1-6 世界の各年代別高齢者の割合及び推移（続き）



資料：UN, World Population Prospects : The 2022 Revision
 ただし日本は、2020年までは総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。

図1-1-7 主要国における高齢化率が7%から14%へ達するまでの所要年数



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」（2023）改訂版
 （注）1950年以前はUN, The Aging of Population and Its Economic and Social Implications (Population Studies, No.26, 1956) および Demographic Yearbook、1950年以降はUN, World Population Prospects : The 2022 (中位推計) による。ただし、日本は総務省統計局「国勢調査報告」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（令和5年推計）による（〔出生中位（死亡中位）推計値〕。1950年以前は既知年次のデータを基に補間推計したものである。